

[研究会報告]

Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2) 感染による新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）は、日本では2020年2月1日に指定感染症に定められた。これにより、医師は COVID-19 と診断した患者は全数保健所に届出することが義務付けられ、保健所においては、陽性者に対して積極的疫学調査（感染源の遡り調査や接触者調査）の実施による感染者の把握が開始された。

小児の COVID-19 に関しては、世界的にも軽症あるいは無症状で経過し、重症化する事例は少ないとの報告が多い¹⁻²⁾。国内の COVID-19 診断例は2020年5月28日までは国の感染症サーベイランスである感染症発生動向調査事業（NESID, National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases）へ報告されており、翌29日から Health Center Real-time information-sharing System on COVID-19（HER-SYS）へと移行された。国立感染症研究所感染症疫学センターでは2020年2月1日から5月28日までに NESID に登録された COVID-19 患者のうち、20歳未満についてまとめた³⁾。この調査期間に NESID に届出がなされ、7月21日時点で確認済であった全 COVID-19 症例（患者、無症状病原体保有者、感染症死亡者の死体）は16,765例であった。感染者（患者＋無症状病原体保有者）は0-19歳まで全年齢に認められた（図1）。

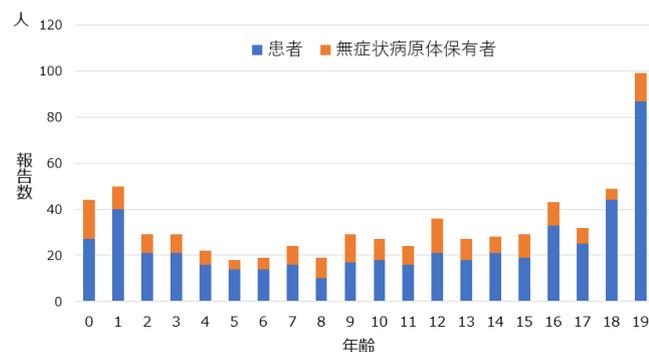


図 1. 0-19 歳の COVID-19 症例の診断カテゴリー別年齢分布（届出時点、2020年2月1日～5月28日）

0-14歳の感染者は425例（全体の2.5%）で、患者290例（68.2%）、無症状病原体保有者135例（31.8%）であった。15-19歳の感染者は252例（全体の1.5%）で、患者208例（82.5%）、無症状病原体保有者44例（17.5%）であった（表1）。

	Total	0-14y	15-19y
n(%)	16,765	425 (2.5%)	252 (1.5%)
患者	14,970	290 (1.9%)	208 (1.4%)
無症状病原体保有者	1,795	135 (7.5%)	44 (2.4%)

表 1. 20歳未満の年齢群別患者・無症状病原体保有者の割合

0-14歳、15-19歳の症状（届出時点、表）は、それぞれ発熱が70.3%、73.6%、咳嗽が36.2%、46.2%、その他の症状が45.9%、65.9%で、重篤な肺炎を呈した例は、0-14歳はなく、15-19歳は2例（1.0%）であった。0-19歳の死亡例はなかった（表2）。

症状	数（割合%）	
	0-14歳	15-19歳
発熱	204/290 (70.3%)	153/208 (73.6%)
咳嗽	105/290 (36.2%)	96/208 (46.2%)
咳以外の急性呼吸器症状	20/290 (6.9%)	10/208 (4.8%)
重篤な肺炎	0/290 (0%)	2/208 (1.0%)
その他	133/290 (45.9%)	137/208 (65.9%)

表 2. 届出時点（2020年2月1日～5月28日）の患者の症状（記載があった0-14歳290例、15-19歳208例について）

海外からの報告同様、国内の小児の COVID-19 報告数は成人と比較少なく、軽症例が多かった。

ただし、調査期間中の 2020 年 3 月 2 日から学校が全国一斉休校となっており、今回の結果だけで小児は SARS-CoV-2 に感染しにくいと判断することはできない。感染源についても同様に、小児の感染源として最も報告が多かったのは家族であったが、社会全体が「ステイホーム」の間、小児が最も長い時間接するのは家族と考えられ、そのため最多感染源が家族であった可能性がある。19 歳は 18 歳以下の 2-3 倍の報告数があり、15-19 歳群の推定感染源には就職やアルバイトを含めた行動範囲の広さが反映されていた。5 月 29 日以降 COVID-19 のサーベイランスは HER-SYS に移行したため、報告様式等が異なり、5 月 28 日までの報告とは比較できなくなったが、社会活動や集団生活が再開され、家族以外の人との接触が増した後の小児 COVID-19 の疫学変化を注視していくことは、今後の感染対策、感染拡大予防策を実施するうえで極めて重要である。

このような疫学情報は COVID-19 患者への対応、対策を考えるうえで非常に重要である。日本の保健所が実施している積極的疫学調査は精度が高く、正確な接触者のリスト化やそれに基づいた検査の実施などが感染者数の抑制につながっていると評価されている。このような対応が世間的に広く認知され、医療機関や患者本人からの情報が今以上に集まることで、with corona 時代においても正しい接触者の把握が行われ、迅速な対応が行われることで大切な人や友達、同僚を COVID-19 から守ることが可能となる。

参考文献

- 1) CDC COVID-19 Response Team :
Coronavirus disease 2019 in children –
United States, February 12-April 2, 2020.
MMWR Weekly / April 10, 2020 / 69(14):
422-426
- 2) IDWR 2020 年第 27 号<注目すべき感染症>

国内における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の状況

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/9746-idwrc-2027.html>

- 3) 国立感染症研究所感染症疫学センター. 実地疫学専門家養成コース (FETP) . NESID に届出された 20 歳未満の新型コロナウイルス感染症例のまとめ(2020 年 2 月 1 日~5 月 28 日) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/covid-19/9853-covid19-22.html>